

令和元年 12 月 9 日
県庁舎跡地活用室

県庁舎跡地埋蔵文化財の取扱に関する外部専門家からの
意見聴取（第 1 回）の結果について

去る 12 月 5 日、外部専門家を招聘し、県庁舎跡地での現地説明及び意見聴取を実施した結果について下記のとおりお知らせします。

記

（招聘した外部専門家）

- ・坂井 秀弥氏【奈良大学教授】文化庁調査官OB
- ・服部 英雄氏【くまもと文学歴史館長】文化庁調査官OB

（概要）

現地において、掘り下げられた試掘坑の状況を視察し、江戸時代のものと考えられる土層と遺構・遺物、旧立体駐車場前の石垣の状況などを確認し、その後意見聴取を実施。

（主な意見等）

- ・発掘調査はしっかり行なわれていて、手がかりがたくさん得られている。
- ・長崎の原点となる重要な場所であり、どのような時代の層にどのような遺構・遺物が残されているかを十分確認するために、引き続き予断を持たずに調査を進めて欲しい。
- ・旧立体駐車場前の試掘坑では、明治期の石垣が確認されており、その下には江戸期の石垣が残っている可能性が高い。石垣ラインが特定できれば、絵図と合わせて奉行所の規模や配置がわかる手がかりのひとつになる。現時点で、石垣のラインを確認できたのは大きな成果である。
→今後実施する旧県庁南門付近の調査結果も踏まえ、次回の意見聴取（1 月中旬を予定）の際に改めてご意見を伺うこととなった。

- 西側（第三別館側石垣付近）については、もとの地形が低くなっていることによって江戸期の層が削平されずに残っている箇所があり、寛文の大火（1663年）以前のものであると思われる土層と遺構・遺物が確認されている。その下にさらに古い時代の遺物を含む層が残っている可能性があるのではないかと。
- 学芸文化課において、引き続き下層についても調査を行い次回の意見聴取の際に改めてご意見を伺うこととなった。